

137 糸満マギー（口）（山原船）

本当に大きい人だった。武勇はあんまりないが、大きいんだから、力があるわけ。それで、王様からね、「私の子孫にそんな人がいるかなあ」と、そう言うて、後ろを撫でたそうです。そしたらもう、後ろの皮が剥けたという。そのぐらいで。王様は見上げていたそうです。

あの人は、昔の話ではね、あんまり大きいものだから、丹前掛けてね、女を二人ここへ挟んで歩いてもらなかつた。大きすぎて。

それからね、この人が、安部・嘉陽あぶ かようと言って海端に村がある。いろんな人がな、漁師だから、点々と沖繩を回っているんです。あっちでね、大きいから、また、顔も奇麗だったそうです。女が付くがね、そんな大きな人だからもう、この人にやられたら大変と思ってね。遊びに女は集まって来たそうです。それで青年たちがね、

「これ、殺さんといかんね。女はもうあの人に付いて行くから」。それで、青年が集まって、殺そうと考えていたそうです。

そしたら、山原船といつてね、薪を運んでいつものように来よつた。山原から。その柱がこの浜にあつたそうです。それでこの人がね、『これはもう、これでおさめにゃいかん』と、この柱の先を持って、これを振つたそうです。振つたらもう、この青年たちが、「もう大変」と言つて逃げて行つたそうです。そんな話もある。糸満マギー。

類話

字糸満	金城安彦
字豊原	国吉力マド
字名城	新垣武登

字糸満 上原亀広